

第22回

八戸市 遺跡調査 報告会

発表資料集



松ヶ崎遺跡



笹ノ沢(4)遺跡

法霊林遺跡



(写真提供：青森県埋蔵文化財調査センター)

細越遺跡



目次

- ◆ まつがさき 松ヶ崎遺跡 (八戸市大字十日市 縄文時代) P4
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 主事兼学芸員 宇庭 瑞穂
- ◆ ささのさわ 笹ノ沢(4)遺跡 (八戸市大字尻内町 奈良時代) P6
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 主事兼学芸員 上ノ山 拓己
- ◆ ほそこえ 細越遺跡 (八戸市大字松館 平安時代) P8
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 主事兼学芸員 山田 貴博
- 【特別報告】
- ◆ ほうりょうばやし 法霊林遺跡 (八戸市大字田面木ほか 飛鳥時代から平安時代) . . . P10
青森県埋蔵文化財調査センター 文化財保護主事 長谷川 大旗氏

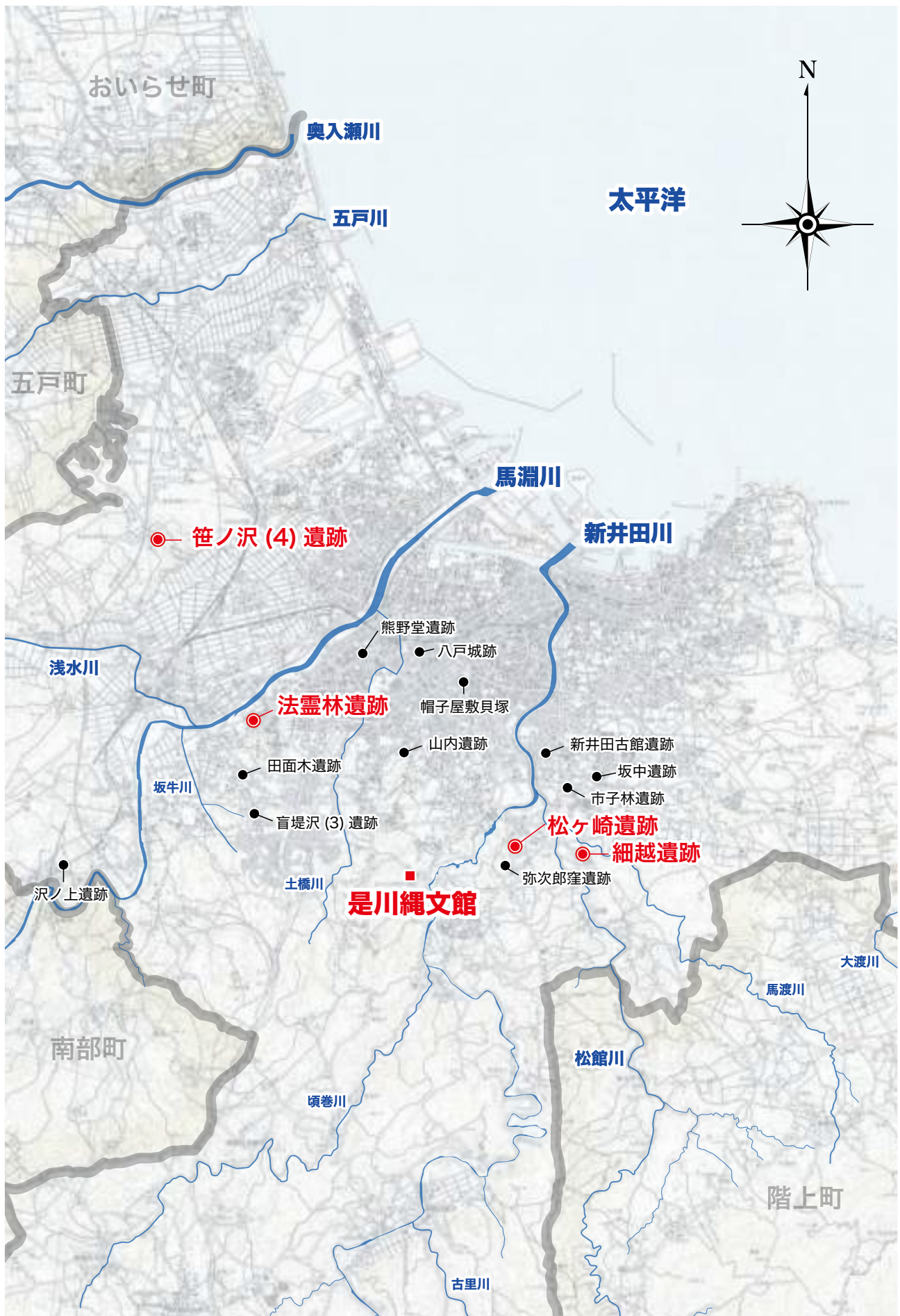
- ◎ 日時：2023年11月11日 午後2時から
- ◎ 会場：是川縄文館 1階 体験交流室
- ◎ 主催：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

令和 5 年度発掘調査遺跡一覧

No	遺跡名	時代／種類	所在地	調査原因	調査面積 (㎡)	調査期間	
試掘調査	1	細越遺跡①	奈良・平安／散布地	松館	個人住宅建築	14.8	令和 5 年 4 月 4・5 日
	2	熊野堂遺跡①	縄文・奈良・平安／集落跡	長根	個人住宅建築	53.5	令和 5 年 4 月 12～14 日
	3	坂中遺跡①	縄文・奈良・平安／散布地	妙	個人住宅建築	8	令和 5 年 4 月 17 日
	4	沢ノ上遺跡①	弥生・奈良・平安／集落跡	上野	太陽光発電設備工事	76	令和 5 年 4 月 24～27 日
	5	市子林遺跡①	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世／集落跡	新井田	棟割長屋建築	64	令和 5 年 4 月 24～28 日
	6	盲堤沢 (3) 遺跡①	縄文／集落跡	田面木	個人住宅建築	12	令和 5 年 6 月 5 日
	7	弥次郎窪遺跡①	縄文・弥生・平安／集落跡	十日市	個人住宅建築	23	令和 5 年 7 月 3・4 日
	8	八戸城跡①	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近世・近代／城館跡	内丸	個人住宅建築	10	令和 5 年 7 月 10・11 日
	9	帽子屋敷貝塚① (隣接地)	縄文／貝塚	類家	個人住宅建築	16.5	令和 5 年 7 月 24 日
	10	新井田古館遺跡①	縄文・奈良・平安・中世・近世／集落跡・城館跡	新井田	個人住宅建築	17	令和 5 年 9 月 25・26 日
	11	田面木遺跡①	縄文・弥生・奈良・平安／散布地・集落跡	田面木	個人住宅建築	0.5	令和 5 年 10 月 13 日
	12	山内遺跡①	縄文・平安／散布地	糠塚	個人住宅建築	8	令和 5 年 10 月 23 日
	13	市子林遺跡②	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世／集落跡	新井田	集合住宅建築	76	令和 5 年 10 月 26・27 日
本発掘調査	14	笹ノ沢 (4) 遺跡	縄文・平安／散布地	尻内町	工業団地開発	2,500	令和 5 年 4 月 4 日～6 月 30 日
	15	松ヶ崎遺跡第 11 地点	縄文・奈良・平安／集落跡・貝塚	十日市	長芋作付け	2,200	令和 5 年 4 月 14 日～11 月 30 日 (予定)
	16	細越遺跡第 2 地点	奈良・平安／散布地	松館	個人住宅建築	120	令和 5 年 4 月 21 日～5 月 31 日
	17	熊野堂遺跡第 8 地点	縄文・奈良・平安／集落跡	長根	個人住宅建築	104	令和 5 年 5 月 8 日～25 日
	18	八戸城跡第 55 地点	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近世・近代／城館跡	内丸	道路改良工事	60	令和 5 年 9 月 4 日～10 月 24 日
	19	八戸城跡第 54 地点	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近世・近代／城館跡	内丸	道路改良工事	100	令和 5 年 10 月 16 日～30 日
	20	新井田古館遺跡第 36 地点	縄文・奈良・平安・中世・近世／集落跡・城館跡	新井田	個人住宅建築	83.4	令和 5 年 10 月 24 日～31 日

報告遺跡

※ 10 月末日現在



令和 5 年度発掘調査遺跡位置図

まつがさき 松ヶ崎遺跡

- 縄文時代の大集落！100棟以上の竪穴建物跡を確認 -

1. 遺跡の概要

本遺跡は八戸市中心部から南東約4kmに位置し、新井田川とその支流の松館川に挟まれた標高約27～45mの台地上に立地しています。これまでの調査で縄文時代の遺構が多数みつかっており、なかでも縄文時代中期を中心とした大規模な集落跡であることがわかっています。

現在調査中の第11地点は、遺跡のほぼ中心に位置します。長芋作付けに先立ち、令和元(2019)年から調査を始め、今年で調査5年目です。調査対象面積約8,622㎡のうち、約2,200㎡を現在調査中です。

2. 検出遺構と出土遺物

第11地点では、縄文時代の竪穴建物跡85棟以上・掘立柱建物跡5棟・土坑51基(うち土坑墓15基、フラスコ状土坑14基)・溝状土坑1基・盛土遺構2か所、古代の竪穴建物跡5棟、時期不明の溝跡・土坑23基(うち土坑墓11基)などを確認し、縄文土器(中期中葉～後葉)を中心に、土製品(土偶など)や石器(石鏃・石槍・石斧・石皿など)、石製品(石棒など)、土師器(坏・甕など)、炭化種子(クルミなど)、獣骨(シカなど)などが出土しています。

調査区の西側と北側では、人為的な土が堆積する盛土遺構が2か所みつかりました(右図ドット部)。西側の盛土遺構は南北約40m・東西約30mの規模で、多量の遺物を含む土が最大約1mほどの厚さで堆積しています。盛土遺構からは、縄文時代中期中葉～後葉の土器が多量に出土しているほか、土偶や石棒などの祭祀に係る遺物や、獣骨(シカなど)や炭化材や炭化種子なども出土しています。出土した遺物の時期や量などから、長期にわたって土を盛っていたことが推測されます。一方で、北側の盛土遺構には遺物はほとんど含まれていません。

調査区の中央から西側にかけては、縄文時代の竪穴建物跡が多数みつかりました。一部では、地山(自然に堆積した土)が見えないほど、竪穴建物が密集しているところもあります。竪穴建物跡の時期は、縄文時代中期中葉～後葉のものがほとんどで、大きく分けて北海道南西部～北東北の円筒式土器が出土するものと、南東北の大木式土器が出土するものがあります。また、床面近くから炭化した木材が出土する焼失建物も数棟みつかりました。SI102竪穴建物跡では、床面から炭化したクリ材がみつかり、梁や棟とみられる木材のほか、柱が炭化したものもみつかりました。

調査区東側は遺構が比較的少なく、土坑墓(時期不明を含む)や、フラスコ状土坑などが点在します。調査区中央部では、6本柱の掘立柱建物跡が5棟みつかり、いずれも長軸が北北西を向いています。周辺では、柱穴が複数みつかり、今後の調査でさらに掘立柱建物跡が増える可能性があります。

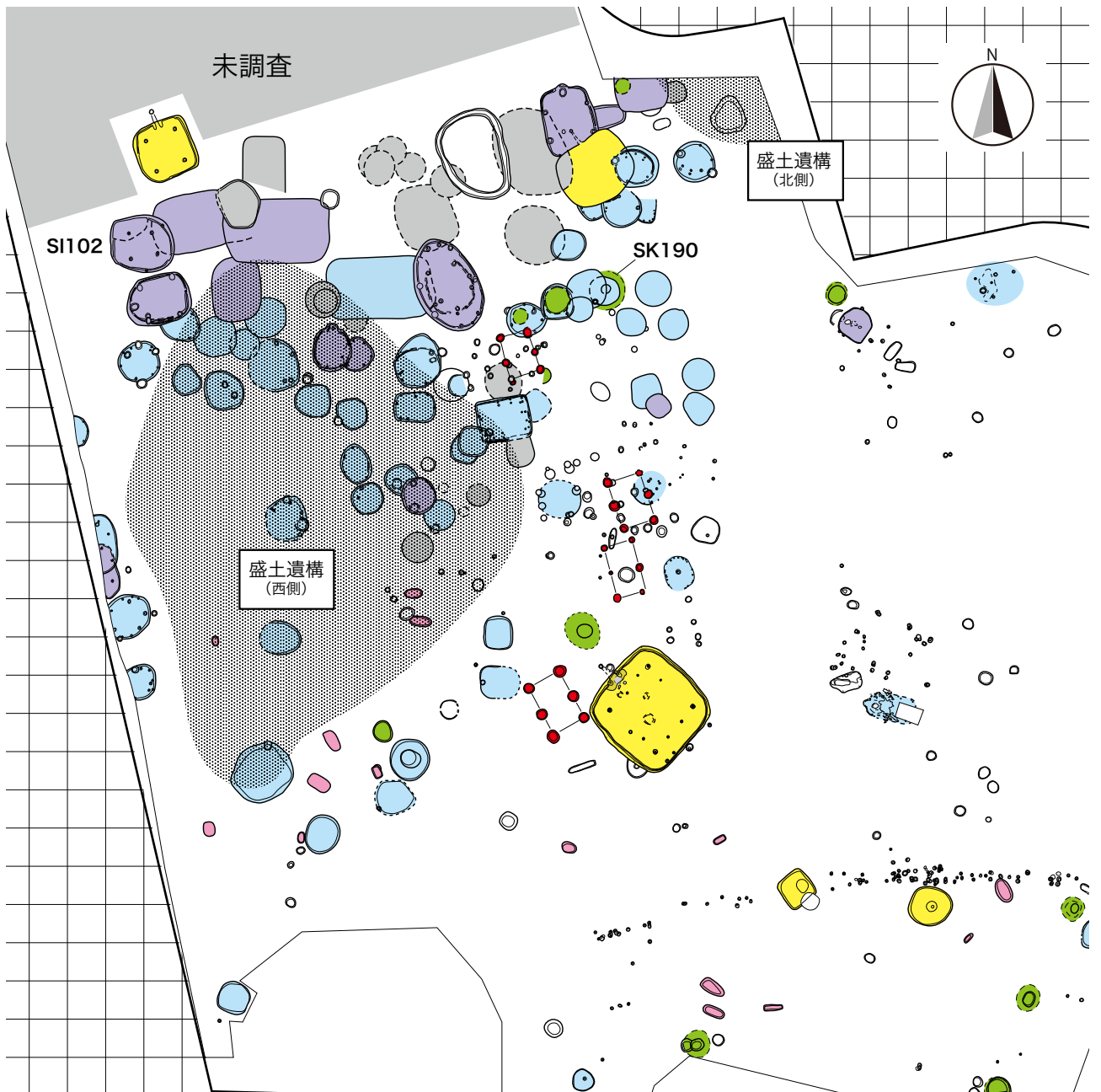
3. まとめ

これまでの調査によって、第11地点における縄文時代中期中葉ごろの集落の様子が少しずつわかってきました。調査区の中央から西側には、多数の竪穴建物跡や掘立柱建物跡などが分布し、中央から東側にはフラスコ状土坑などが分布しています。2棟以上の竪穴建物が重複するところも多数あることから、同時に多数の建物が存在していたのではなく、何世代かにわたって集落が営まれたと考えられます。

また、調査区西側でみつかった盛土遺構の下からも竪穴建物跡が何棟かみつかり、ある時期の集落がなくなったあとしばらくして、周辺の集落の人びとが、竪穴建物などの廃絶後の凹地を利用して盛土遺構を形成したと推測されます。

来年度も調査は続きますので、今後の調査成果にご期待ください。

(宇庭 瑞穂)



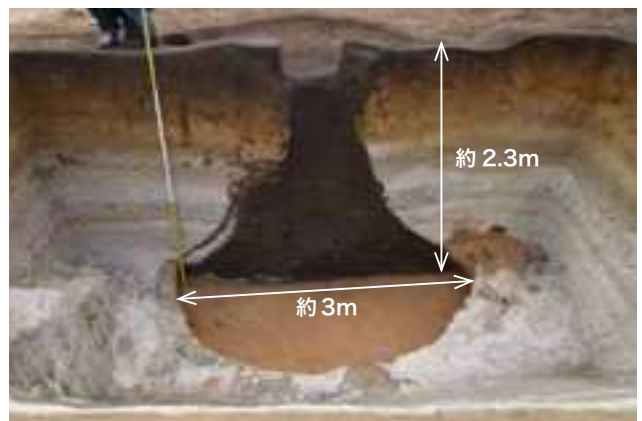
- 縄文時代の竪穴建物跡（円筒式土器） ■ 縄文時代のフラスコ状土坑 ■ 盛土遺構
- 縄文時代の竪穴建物跡（大木式土器） ■ 縄文時代の土坑墓（墓の可能性のあるものを含む） ■ 古代の竪穴建物跡
- 縄文時代の掘立柱建物跡

0 S=1/500 10m

松ヶ崎遺跡第11 地点遺構配置図（調査区中央～西側）



SI102 竪穴建物跡 炭化材検出状況（東から）



SK190 フラスコ状土坑の断面（東から）

まきのまわ 笹ノ沢 (4) 遺跡

- 一辺 8 メートルの大型竪穴建物跡を確認 -

1. 遺跡の概要

笹ノ沢 (4) 遺跡は、八戸市中心部から北西約 5.5km の、馬淵川支流の浅水川と五戸川に挟まれた標高 75 m 前後の丘陵に立地しています。八戸北インター第 2 工業団地の開発に先立ち、令和 4 年度と 5 年度にかけて発掘調査を行いました。2 か年分の調査面積は約 10,000m² で、このうち今年度調査した範囲は約 2,500m² です。今年度の調査期間は、令和 5 年 4 月 4 日から 6 月 30 日までです。

今回は、笹ノ沢 (4) 遺跡の 2 か年分の調査成果を報告します。

2. 検出遺構

調査では、竪穴建物跡 11 棟、掘立柱建物跡 2 棟、土坑 6 基、溝跡 3 条、溝状土坑 21 基を確認しました。このうち、溝状土坑は狩猟用の落とし穴と考えられており、埋め土に石鏃が入っていたことから (MP6 溝状土坑)、縄文時代には狩り場となっていた時期があると考えられます。

竪穴建物跡 11 棟のうち、9 棟が奈良時代の建物です。残りの 2 棟からは年代を推定できる遺物がみつからなかったため年代は不明ですが、建物の構造から古代 (飛鳥～平安時代) のものと考えられます。奈良時代の竪穴建物跡は、一辺 3～8 m の方形で、北側の壁の中央にカマドが設けられています。

今回の大きな成果は、奈良時代の大型竪穴建物跡を確認したことです (SI11 竪穴建物跡)。建物の規模は一辺約 8m です。この建物にはカマドが 2 つあり、建物の床を大きく作りかえた痕跡もみられることから、この建物は何度か作りかえがされていると考えられます。床の拡張やみつかった柱穴の配置から、この建物は最初一辺 6m 程度の 4 本柱の建物として作られ、そこから柱を増やしたり床を拡張したりすることで一辺 8m の 8 本柱の建物になったと推定されます。

3. 出土遺物

今回の調査では、土師器や土製紡錘車、土製勾玉、敲石や石鏃などの石器、石製の玉などが出土しました。土師器は調理に用いられたと考えられる甕と、食器と考えられる坏が出土しており、作りの特徴から奈良時代のものと考えられます。紡錘車は糸に撚りをかける道具であり、集落のなかで繊維から糸を作る作業が行われていたと考えられます。

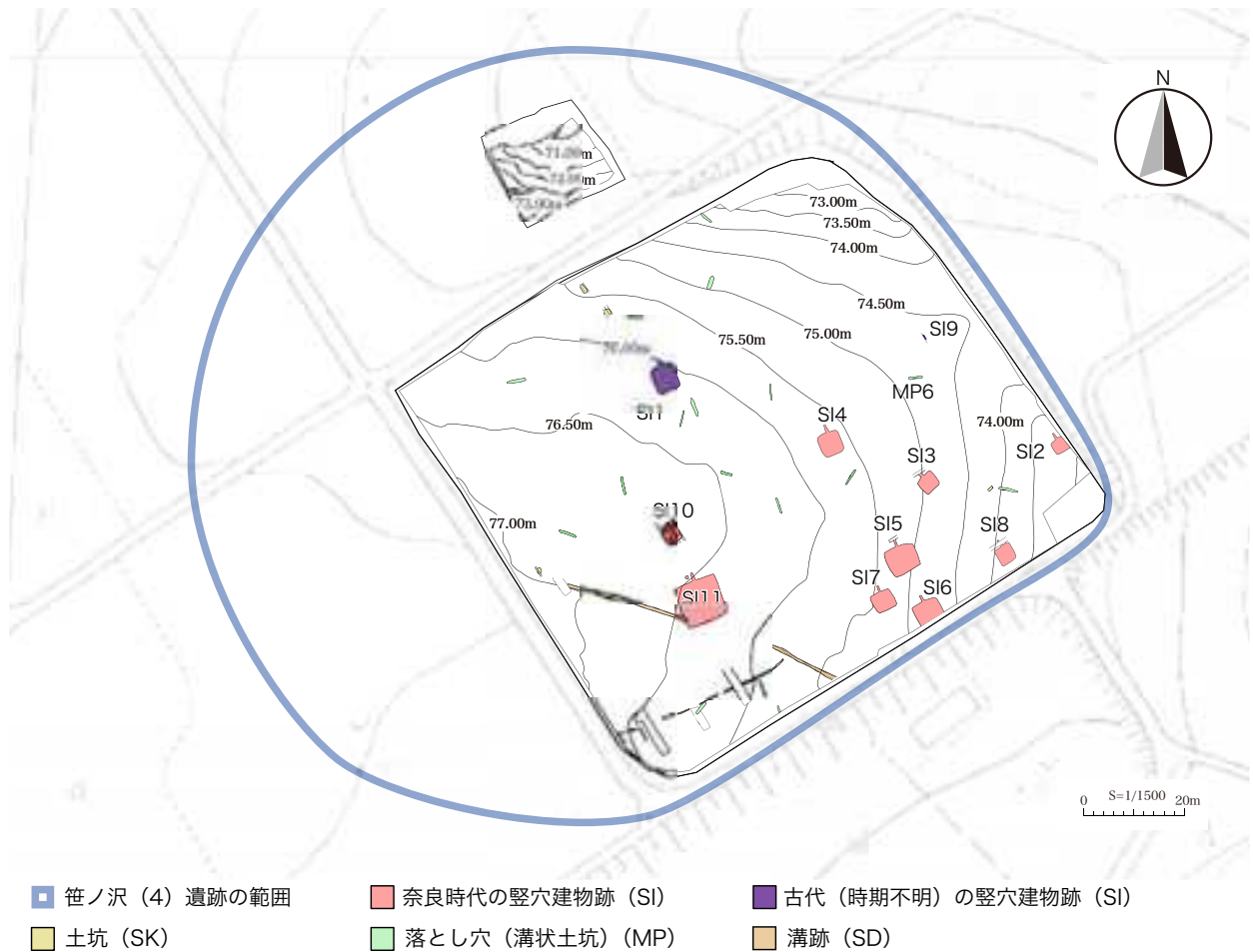
4. まとめ

調査の結果、笹ノ沢 (4) 遺跡では縄文時代と奈良時代に人が活動していたことがわかりました。

奈良時代の遺構は、9 棟の竪穴建物を確認しました。また、今回確認した一辺 8m 級の大型竪穴建物跡は、出土品が少なく遺物から用途を推定することは難しいものの、馬淵川北岸地域の他の奈良時代集落でみつかった竪穴建物跡と比べても大きい建物であることから、地域のなかで特別な場所だった可能性が考えられます。

今年度で工業団地の開発に先立つ発掘調査は終了し、これから調査成果をまとめていくこととなります。笹ノ沢 (4) 遺跡の北東には同じ奈良時代の集落である笹ノ沢 (6) 遺跡と杉子沢 (1) 遺跡が、西にも奈良時代の竪穴建物が確認された毛合清水 (3) 遺跡が立地しています。今後は、笹ノ沢 (4) 遺跡の調査成果とともに周辺遺跡の発掘調査成果も比較・検討することで、馬淵川北岸地域の古代集落の変遷を明らかにしていきたいと考えています。

(上ノ山 拓己)



笹ノ沢 (4) 遺跡遺構配置図



笹ノ沢 (4) 遺跡遠景 (赤い矢印の部分)

奥の白い矢印が毛合清水 (3) 遺跡、手前が笹ノ沢 (6) 遺跡



調査区全景



奈良時代の大型竪穴建物跡 (SI11)

点線の範囲が最初建てられたときの床の範囲



調査中の大型竪穴建物跡 (SI11)

作業員と比較して、かなりの広さがあることがわかる

ほそごえ 細越遺跡

- 竪穴建物跡からウマの骨が出土 -

1. 遺跡概要

本遺跡は、八戸市中心部から南東に約5km、新井田川支流の松館川に面した標高約10～30mの緩やかに傾斜する丘陵上に立地しています。これまでの調査により、遺跡南側で中近世の遺構・遺物や古代の遺物がみつかっています。調査期間は、令和5年4月21日～5月31日、調査面積は約120㎡です。

2. 検出遺構と出土遺物

みつかった遺構は古代の竪穴建物跡が8棟、中世以降の竪穴遺構が1棟、土坑が2基です。遺物は、古代の土師器、須恵器、土製品、鉄製品、動物遺存体などが出土しました。

特に古代の竪穴建物跡は、数棟が重なりあうようにみつかっています。そこから出土した土器は奈良時代終わり頃から平安時代中頃までのものとみられ、同じ場所に繰り返し建物が建てられていたと考えられます。また、竪穴建物跡の外からの出土ではありますが、6世紀頃の古墳時代のものとみられる土器も出土しており、人びとが長い間この辺りに暮らしていたと考えられます。

SI1 竪穴建物跡からはウマの顎の骨が出土しました。時期は平安時代中頃と考えられます。ウマの歯をよく観察すると、歯の側面のエナメル質がすり減っている部分が見られます。これはウマに馬具(轡)を装着させていた痕跡と考えられ、人びとの生活にウマが利用されていたと推察されます。

SI6 竪穴建物跡では、手鎌や紡錘車、針などの生活に関わる鉄製品が豊富に出土しました。また、建物の床面からは、金床石や鍛造剥片、土製羽口といった鍛冶作業に関連する遺物もみつかったことから、鉄製品の生産・加工も行っていたことがわかりました。さらに、カマドに鑿が刺さった状態でみつきり、カマドを廃棄する際の何らかの儀礼的行為が行われたと推測されます。

3. まとめ

今回の発掘調査での大きな成果は、遺跡北側でこれまでみつかっていなかった古代の集落が確認されたことです。また、このように狭い範囲に古代の竪穴建物跡が密集することは珍しく、長い間人びとがこの場所にこだわって生活していたことが考えられます。さらに、鉄製品の加工を行う技術をもち、ウマを利用して生活した人びとである彼らの生業の一端も明らかになりました。竪穴建物跡からは、大型の須恵器の破片もみつかっていることから、周辺の集落との関係を明らかにすることが今後の課題です。

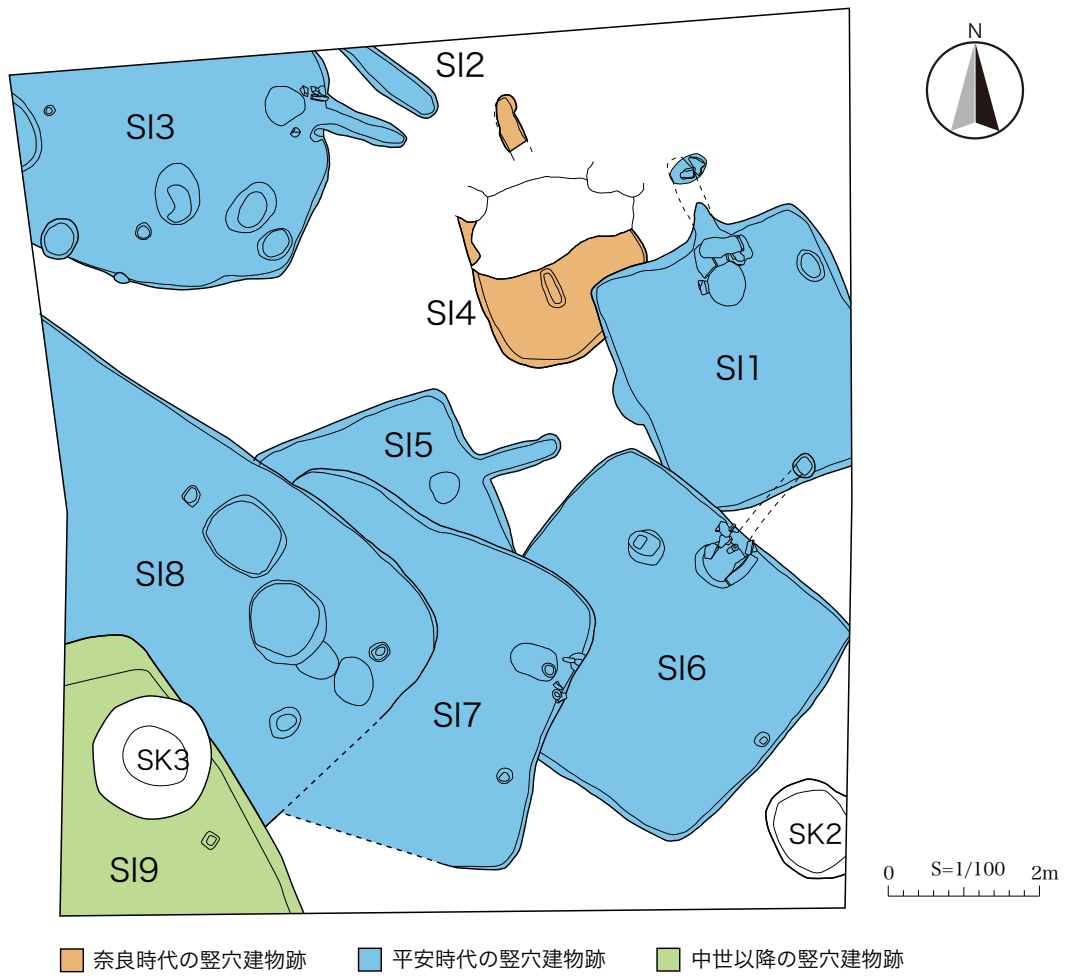
(山田 貴博)



ウマ骨出土状況



鉄製紡錘車出土状況



細越遺跡第2地点遺構配置図



重なり合う竪穴建物跡（北西から）

ほりょうばやし
【特別報告】 法霊林遺跡
- 竪穴建物の廃絶に伴う方頭大刀が出土 -

1. 遺跡の概要

法霊林遺跡は史跡根城跡から南西 2 km、馬淵川の右岸、河口から 15 km 上流に位置しています。馬淵川流域は県内有数の遺跡が多い地域で 100 箇所以上の遺跡が見つっています。本遺跡はその中でも最も低いところに位置する古代集落のひとつです。青森県埋蔵文化財調査センターでは、3・3・8 白銀市川環状線(尻内工区)道路改築事業に伴い令和 2 年に発掘調査を行い、発掘調査報告書は令和 3 年度に刊行しました。また、これまで八戸市教育委員会による調査も複数回行われています。

2. 検出遺構

調査は田面木段丘面(標高 9 ~ 12 m)の A 区と根城段丘面(標高 18 ~ 20 m)の B 区で行いました。遺跡からは主に古代の遺構が見つかり、竪穴建物跡 11 棟、土坑 3 基、大溝跡 1 条、性格不明遺構 1 基を検出しました。古代の竪穴建物跡は飛鳥~奈良時代が 6 棟、平安時代が 5 棟で、そのうち 4 棟は平安時代初頭の遺構です。遺跡の最も低位で見つかった大溝跡は飛鳥~奈良時代の可能性が高く、集落の区画溝と考えられます。他には、縄文時代早期の竪穴建物跡 1 棟、円形や溝状の落とし穴 4 基、古代以降は掘立柱建物跡 3 棟、ピット 144 基、溝跡 3 条などが見つかりました。

3. 出土遺物

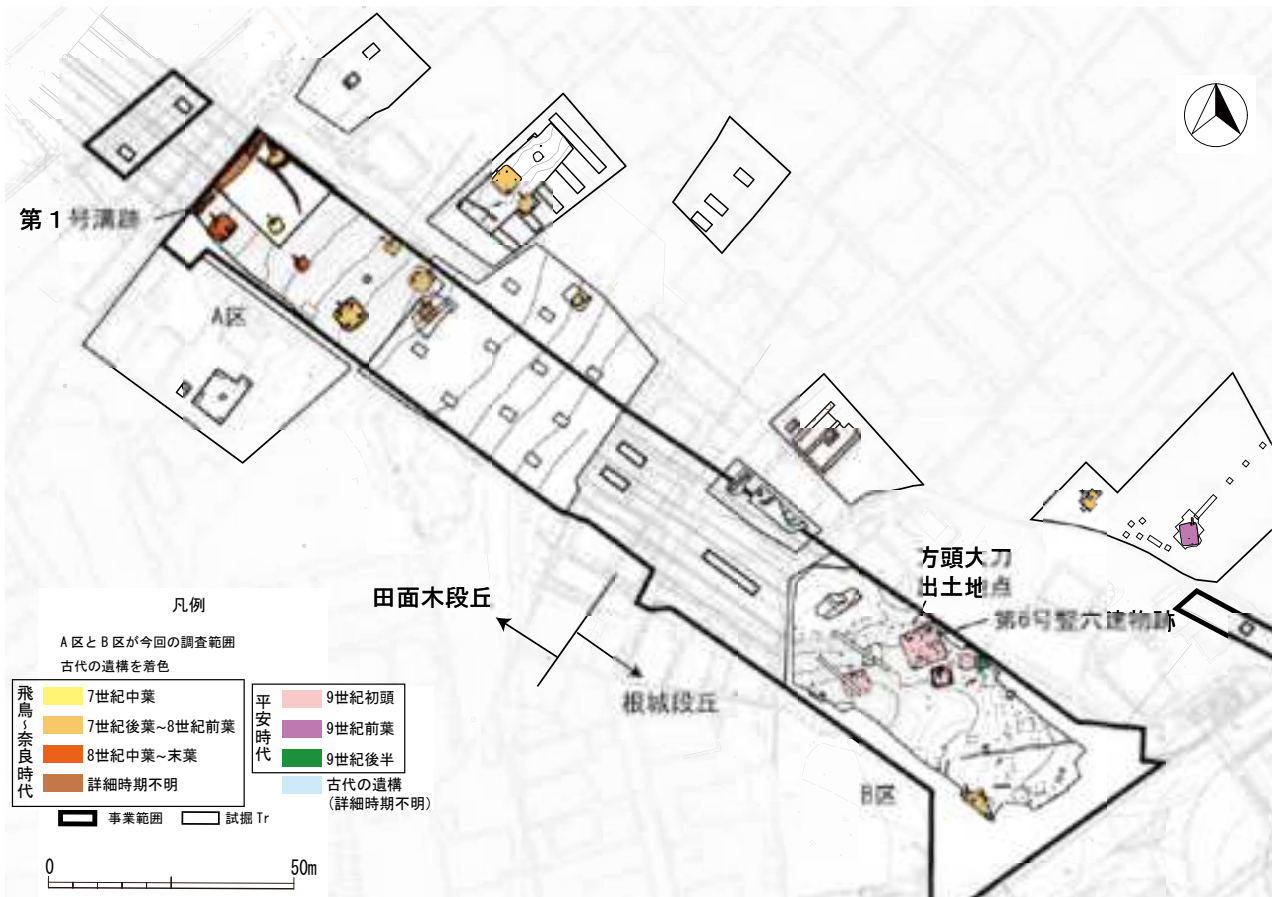
遺物は縄文時代から近世のものが段ボール箱で約 70 箱分出土しました。大半を古代の土器が占め、特に平安時代初頭のものがまとまって出土しました。須恵器が第 6 号竪穴建物跡から多様な種類が出土し、横瓶は県内で 9 例目と貴重です。方頭大刀が第 6 号竪穴建物跡のカマドの煙出しピットから出土し、全国で唯一の出土状況です。方頭大刀は、長さ 63.7 cm の完全な形で、モクレン属の鞘も残存していました。方頭大刀や須恵器(長頸瓶や大甕)は具体的にどこで作られたかは明らかにできていませんが、南東北からもたらされた可能性が高いです。

4. 総括

平安時代初頭に位置づけられる第 6 号竪穴建物跡は床面積 59.3 m² と超大型で、複数の段階を経て建物が廃絶されたことがわかりました。廃絶の過程は、直前までカマドを使用していたと仮定すると、まずカマドを破壊し、火で建物が倒壊するなか、土器(土師器や須恵器)やスギ製の器に入ったご飯(炊飯後)やコメ粒などを散布したあと、煙出しピットを炭化米が含まれる土で埋め戻して、方頭大刀に力をかけて挿入したと考えられます。

今回の調査で古代集落の構造が、飛鳥~奈良時代と平安時代初頭で変化していることがわかりました。飛鳥~奈良時代では田面木段丘を中心に遺跡全体に大溝に区画された集落が展開します。平安時代初頭になると、根城段丘のみに建物が一部重複して帯状に密集します。北東北における平安時代初頭は、集落数が急減するなど様々なものが律令国家の動きを受け大きく変容します。同じ時期、法霊林遺跡でも、超大型竪穴建物跡の方頭大刀を用いた廃絶行為や集落構造の変化などがみられ、転換期を迎えた古代集落の人々の実態が明らかになりました。今回の調査は、八戸市域をはじめとした北東北の古代社会を考える上で重要な成果です。

(長谷川 大旗)



法霊林遺跡 遺構配置図



第6号竪穴建物跡出土遺物



方頭大刀



煙出しピット 方頭大刀出土状況



第6号竪穴建物跡完掘



写真の遺跡

左上：松ヶ崎遺跡

右上：笹ノ沢（4）遺跡

左下：細越遺跡

令和5年度の発掘調査の様子

発掘調査はたくさんの作業員さんに支えられています。

旧石器	縄文						弥生	古墳	古代			中世		近世	近代
	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期			飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	安土桃山	江戸
				松ヶ崎				細越		笹ノ沢					
															法靈林

今回の報告遺跡の主な時代

第22回 八戸市遺跡調査報告会 日程

- 9:00 出土品展示室開場
- 13:30 報告会受付開始
- 14:00 開会挨拶
- 14:05 令和5年度調査概要
- 14:10 調査成果報告 松ヶ崎遺跡
- 14:30 調査成果報告 笹ノ沢（4）遺跡
- 14:50 休憩
- 15:05 調査成果報告 細越遺跡
- 15:25 特別報告 法靈林遺跡
- 15:45 質疑応答
- 15:55 閉会挨拶
- 閉場

